

公開資料

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
実装活動終了報告書

研究開発成果実装支援プログラム

「発達障害者の特性別評価法 (MSPA) の医療・教育・社会現場への普及と活用」

採択年度 平成26年度

実装支援期間 平成26年10月～平成29年9月

実装責任者 船曳 康子 (京都大学 大学院人間・環境学研究科、准教授)

目次

1. プロジェクト名・目標・活動要約	1
2. 実装活動の計画と内容	2
(1) 全体計画	2
(2) 各年度の実装活動の具体的内容	2
3. 実装活動の成果	12
4. 実装活動の組織体制	13
5. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動等	14
(1) 展示会への出展等	14
(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等	14
(3) 書籍、DVD	19
(4) ウェブサイトによる情報公開	19
(5) 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等	19
(6) 論文発表（国内誌 8 件・国際誌 2 件）	21
(7) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	22
(8) 新聞報道・投稿、受賞等	27
(9) 知財出願	27
(10) その他特記事項	27
6. 結び	27

1. プロジェクト名・目標・活動要約

(1) 実装活動プロジェクト名

「発達障害者の特性別評価法（MSPA）の医療・教育・社会現場への普及と活用」

(2) 最終目標

- ① MSPAを医療保険の対象とすること
- ② 発達障害の支援・診療モデルの提案
- ③ MSPAの年齢層別（所属集団別）の評価支援マニュアルの発行・配布
- ④ MSPAを学ぶための講習プログラムの発足・定期開催

(3) 実装支援期間終了時の目標（到達点）

医療保険制度にのった、医療機関における実地や普及のサポートを行う。

講習は、医療・教育・社会いずれにも適用し、その依頼に応じて講師を派遣する。また、京都国際社会福祉センターにて、年に数回の講習会を開催し、受講者に対し修了証を発行する。それと同時に当プロジェクトで作成した年齢層別評価支援マニュアルを頒布する。

(4) 活動実績（要約）

マニュアル作成：まず、種々の立場からのライフステージを通した支援となるようなマニュアル作成を目指し、年齢層別ワーキンググループを立ち上げた。それぞれ、保育や学校現場および就労支援に関するニーズ調査を実施しながら、課題を整理し、現場でのニーズ調査も踏まえて、年齢層別MSPA評価支援マニュアルの草案を作成した。それらを、特に移行支援を念頭に、チーム全体での検討をおこない、MSPAによる評価支援の効果について情報収集や事例検討も通して、年齢層別評価支援マニュアルを完成させた。

講習会プログラム：年齢層ごとの講習プログラムに盛り込むべき留意点をとりまとめ、平成27年度後半に草案を作成した。平成28年度前半で、チーム全体で講習会プログラムの内容について検討した上で、ロールプレイのビデオ撮影を行い、試作プログラムを完成させた。平成28年度から、担当者が講師となり、試作プログラムを用いた講習会を開催した。講習会参加者の意見やサポート結果をもとに、講習プログラムの見直しを行い、講習会プログラムを完成させた。平成28年7月から、定期的に講習会を開催し、平成29年度には年6回の開催、平成29年9月末までで、450名ほどの修了者を輩出した。

医療保険制度：平成26年度より情報収集を行いながら、有効性・妥当性・進捗をいつでも解説できるようまとめた。専門学会での活動、関係者との議論を重ね、平成28年4月1日より、保険収載されるようになった。

各種学会活動：当該プロジェクトには幅広い立場のメンバーが参画しており、それぞれの専門領域の学会にて、盛んに活動を行った。発表やシンポジウムの企画、また、互いの学会で交流することにより、分野をまたいだ議論も心掛けた。

事例検討会の実施：様々な状況の発達障害者に、ライフステージを通した一貫した支援が行き届くよう、事例検討会を繰り返して、専門分野をまたぐスタッフにて理解を深め、マニュアルや講習会に活かした。

2. 実装活動の計画と内容

(1) 全体計画（黒色：計画、青色：実際）

年度 項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
評価支援マニュアルの役割分担と計画	←→ ←→			
行動観察と支援の留意点に関する草案作成	←→ ←→			
マニュアルに対する現場評価と助言、フィードバック		←→ ←→	←→ ←→ まとめ作業	
講習会の内容検討		←→ ←→	←→ ←→ 継続	
講習会の実施			←→ ←→ 継続	←→ ←→
京大病院での研修会	←→ ←→	講習会開催に伴い、より広範囲での研修に移行		
発達障害の支援モデルの企画・提案			←→ ←→	←→ ←→
学会活動		←→ ←→ 早期からの対応	←→ ←→	←→ ←→
医療保険への対応	←→ ←→			←→ ←→

(2) 各年度の実装活動の具体的内容

<H26年度>

MSPA の年齢層別評価支援マニュアル（幼児版、小学生版、中学生版、高校生版、就労支援版）の作成のため、ワーキンググループを年齢層別に立ち上げ、メンバーと役割を決め、作業計画を策定した。現場のニーズを調査し、行動観察項目や支援における留意点について整理した。同時に、幼児健診等で要経過観察となるなどの相談対象児に対して、理解と支援のツールとして導入を試み、年齢層別評価支援マニュアルの草案を作成した。

また医療保険適用に向けて情報収集を行い、学会として推薦する流れとなった。また、医療機

関内の種々の職種のスタッフ（心理士、精神保健福祉士、作業療法士、言語聴覚士、看護師など）が30分で施行可能となるよう、京大病院内の多職種チームが、実際の外来患者にMSPAを毎週、実施し、流れを確認した。また、病院内で、引き続き見学、研修制度を進め、新たに信頼性のある評価者を輩出し、効率の良い手法を検討した。

さらに、以下のように全体および部会ごとの会議を開き、話し合いながら進めていった。

・第1回 実装支援「教育・社会チーム」関係者会議

日時：平成26年11月1日(土) 18時～19時30分

場所：京都大学医学部附属病院精神神経科2回大会議室

内容：全体計画の共通理解をはかった。年齢層別グループメンバーおよび、リーダーを決めた。また、年度末に向けてのグループごとの目標を定め、連絡のためのメーリングリストを作成した。

・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成26年12月14日(日) 10時～12時30分

場所：京都国際社会福祉センター 別館 食堂

内容：実際の事例を通して、幼稚園・保育所などの現場に出向いて、行動観察を通してMSPAを評価する際の課題や留意点について検討した。ミーティングの中で、年長者を対象として面接により評価を行う場合の留意点を先にまとめ、それを参照しながら幼児を対象とし行動観察で評価を行う際のポイントをまとめるという作業の流れが決定した。

・MSPA小学生版・中学生版グループミーティング

日時：平成26年12月17日(水) 19時～21時

場所：京都府総合教育センター 1階 ミーティング室

内容：小学校および中学校の具体的な事例を通して、移行支援に活用するために有効なマニュアルのフォーマットについて検討し、案が決定した。

・MSPA就労版グループミーティング

日時：平成27年1月30日(水) 19時～21時

場所：京都市総合教育センター 1階 情報交流室

内容：大学生および就労支援の際の留意点について検討した。とくに、保護者から幼少期の様子の聞き取りができない場合の評価の仕方および具体的な支援として何が提供できるのかといったことについて検討し、年齢層別マニュアルに盛り込むべき内容について決定した。

・MSPA講習会用ビデオ試作のための撮影

日時：平成26年12月14(日) 13時30分～15時00分

場所：京都国際社会福祉センター 東館 プレイルーム

内容：MSPA講習会用ビデオ制作のための検討材料として、複数の幼児の遊びの様子および大人からの働きかけに対する反応の様子を撮影した。モデルとなった幼児の保護者には、事前に撮影の目的について説明し同意書と誓約書を交わした。

<H27年度>

MSPAの幼児版、小学生版、中学生版、高校生版、就労支援版、子育て支援版の作成のために、それぞれのワーキンググループにて、それぞれの現場のニーズを調査し、行動観察項目や支援における留意点について整理した。MSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書を作成し、ワーキンググループミーティング（5回開催）や事例検討会（別に5回開催）を通じて推敲した。

また、平成28年度に開催するMSPAの講習会の準備として、平成27年8月4日に京都府総合教育センターにて、「MSPA（発達障害評価チャート）によるアセスメント」講座を開催した。模擬事例を作成し、スタッフメンバーにより実演を行いながら、100名規模の学校・保育現場の教育関係者を対象に評定練習と年齢層別の討論会も行った。さらには、LD学会や児童青年精神医学会などの各種学会にて、研修会を開催し、普及に努めた。実地の詳細は、報告書の通りである。

なお、地域の複数の幼稚園にて、各年齢別に定型発達の幼児を対象とした調査を行った。

国際化に向けて、作成したマニュアルを順次、英文化し、海外の協力者に働きかけ、海外での試用を開始した。

【会議・事例検討会】

以下のように全体およびグループ毎の会議を開き、話し合いながら進めていった。

・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成27年4月25日(土) 18時00分～21時15分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPAで評価する特性のうち、コミュニケーション・集団適応力・共感性・こだわり・感覚について、幼児の特性を整理した。

・MSPA幼児版グループミーティング

日時：平成27年5月9日(土)18時00分～22時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPAで評価する特性のうち、反復運動・粗大運動・微細協調運動・多動・衝動性・睡眠リズムについて、幼児の特性を整理した。

・平成27年度第一回関係者全体会議

日時：平成27年6月20日(土) 16時00分～18時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：幼児版会議の内容を全体で共有した。また、MSPA評定の際に参考資料として用いるMSPA事前調査質問紙の素案作成者を割り振った。

・MSPA小中高版合同グループミーティング

日時：平成27年7月26日(日) 13時00分～17時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：MSPA事前調査質問紙の素案を推敲し、MSPA評定用紙の小中高版の文言についての確認を行った。

・MSPA就労支援版グループミーティング

日時：平成27年7月27日(月) 19時00分～21時30分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：MSPA事前調査質問紙を推敲した。またMSPA評定用紙に新たにチェックポイントを追加することとし、就労支援版のチェックポイントについて整理した。

・平成27年度第二回関係者全体会議

日時：平成27年8月29日(月)14時00分～19時00分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：MSPAの講習会で行うロールプレイについて確認をした。またMSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書について確認し、必要に応じて遂行した。

・MSPA子育て支援版グループミーティング

日時：平成27年9月5日(日) 13時30分～16時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

内容：子育て支援版のチェックポイントについて、担当者の素案を基に推敲した。

・平成27年度第一回事例検討会

日時：平成27年11月22日(日) 13時30分～17時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

中学生女子の事例 これまでに作成したMSPA記録用紙・MSPA事前調査質問紙・MSPA実施説明書及び同意書を実際に用いて事例検討を行い、必要に応じて内容の確認を行い、書類を修正した（事例検討会では以下同様）。

・平成27年度第二回事例検討会

日時：平成27年11月28日(土) 14時00分～17時30分

場所：京都大学こころの未来研究センター別館・セミナー室1

小学生男子の事例

・平成27年度第三回事例検討会

日時：平成28年1月9日(土) 14時00分～16時30分

場所：京都大学こころの未来研究センター別館・202

中学生女子の事例

・平成27年度第四回事例検討会

日時：平成28年1月17日(日) 14時30分～17時00分

場所：京都国際社会福祉センター

成人（子育て中の母親）の事例

・平成27年度第三回関係者全体会議

日時：平成28年2月7日(日) 13時00分～16時00分

場所：京都大学大学院人間・環境学研究科 吉田南2号館212号室

内容：進捗状況（MSPA評価用紙・MSPA事前質問紙の作成、幼稚園調査等）の確認、MSPA講習会について確認をした。

・平成27年度第五回事例検討会

日時：平成28年2月14日(日) 13時30分～17時00分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫

高校生男子の事例

・平成27年度第六回事例検討会

日時：平成28年3月6日(土) 9時30分～12時30分

場所：京都府総合教育センター・特別支援教育部部室・書庫
大学生女子の事例

【調査】

日時：平成28年2月～3月

場所：京都市内および高槻市内の幼稚園・大学（個人情報特定につながるため記載を省略する）

内容：定型発達の幼児（計44名）を対象としたMSPA評定を行うため、その保護者を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。また幼稚園の教諭にも質問紙調査を実施した。定型発達の成人（計2名）を対象としたMSPA評定を行うため、本人を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。調査の際には、他の指標としてASEBA（Achenbach System of Empirically Based Assessment）による行動チェックリスト、認知機能検査として新版K式発達検査も同時に行い、データの補強を行った。

<H28年度>

4月より、MSPAは医療保険に収載され、利用者、講習会希望者、研修会のニーズの増加は著しく、研修会の一層の充実と研修会の人数の増加に努めた。

マニュアルに関しては、平成27年度に作成した年齢層別評価支援マニュアルを用いながら、更なるブラッシュアップを行った。詳細な評定用紙に年齢層別の留意点を加え、MSPA専用の質問紙も作成した。質問紙は、事前に情報を系統立ててもれなく、複数の関係者から集めるために工夫した。これらのマニュアル、評定用紙、質問紙は、7月末には完成し、配布を開始した。またこれらの英語版も作成し、国際化に耐えうる形とした。

講習会プログラムについては、平成27年度の草案をもとに、平成28年度前半で、チーム全体で講習会プログラムの内容について検討した上で、ロールプレイのビデオ撮影を行い、試作プログラムを完成させた。さらに、その試作プログラムを用いた講習会を開催した。講習会参加者の意見やサポート結果をもとに、講習プログラムの見直しを行い、講習会プログラムもまた完成させた。28年度には、2日間の講習会を3回行い、計200名の研修修了者を輩出し、それぞれに修了書を発行した。

そして、MSPAも含め、地域（家庭・園・学校・職場）から教育センター・支援センター・医療機関にわたる発達障害の支援・診療の流れについて、種々の現場での実地、意見交換を繰り返し、引き続き、支援モデルを構築した。

さらには、感覚受容や巧緻性の項目に対して、光脳機能イメージング装置を用いた脳機能測

定の解析を開始した。

【会議・事例検討会】

以下のように全体およびグループ毎の会議を開き、話し合いながら進めていった。

- ・平成28年度第一回MSPA講習会に向けた打ち合わせ

日時：平成28年5月6日(金) 13時～16時

場所：吉田南総合館南棟二階215

内容：MSPAの普及のために行う第一回目のMSPA講習会に先立ち、MSPAの手引きや記録用紙等の配布物や、MSPA講習会の構成の確認等を行った。

- ・平成28年度第一回関係者全体会議

日時：平成28年5月20日(金) 17時～20時

場所：吉田南総合館南棟二階216

内容：MSPAの普及のために行う第一回目のMSPA講習会に向けて、講習会のスケジュール確認、関係者の役割確認や、MSPA標準化についての話し合いを行った。

- ・平成28年度第一回事例検討会

日時：平成28年10月2日(日)16時～19時

場所：京都国際社会福祉センター本館二階

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、大学生事例の推敲を行った。

- ・平成28年度第二回関係者全体会議

日時：平成29年1月7日(土) 17時～21時半

場所：吉田南総合館南棟二階216

内容：これまでの講習会についての振り返り（反省点や課題の整理）および、今後の講習会に向けての話し合いを行った。また、講習会受講希望者の待機人数が多いことから（会議時点で600名超）一度の講習会でより多くの人数に対応できるようにするため、講習会の構成の見直しを行った。

- ・平成28年度第二回事例検討会

日時：平成29年1月15日(日)10時～12時

場所：平安女学院大学高槻キャンパス3号館保育科資料室

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、成人中期事例の推敲を行った。

【MSPA講習会】

MSPAの評定は、発達障害についての専門的知識を有する専門職者が、MSPAの考え方や評定基準について理解し、十分な評定練習を積んだ上で行う必要がある。このため、MSPAの概念を理解し、評定の練習をするための講習会を、京都国際社会福祉センターの協力のもと、開催している。平成28年度は、以下のような形で講習会を行った。

・平成28年度第一回MSPA講習会

対象人数：50名

日時：平成28年7月30日(土)・31日(日)

場所：京都国際社会福祉センター

・平成28年度第二回MSPA講習会

対象人数：50名

日時：平成28年10月9日(日)・10日(祝)

場所：京都国際社会福祉センター

・平成28年度第三回MSPA講習会

対象人数：100名

日時：平成29年2月25日(土)・26日(日)

場所：土曜) キャンパスプラザ京都

日曜) 京都国際社会福祉センター

【調査】

日時：平成28年8月9日

場所：京都府内および和歌山県内の幼稚園および小学校（個人情報特定につながるため記載を省略する）

内容：定型発達の幼児・小学生を対象としたMSPA評定を行うため、その保護者を対象とした質問紙調査および面接調査を行った。また幼稚園および小学校の教諭にも質問紙調査を実施した。調査の際には、ASEBAの子ども用のCBCL（Children Behavior Checklist）による行動チェックリスト、認知機能検査として新版K式発達検査も同時に行った。

<H29年度>

講習会をすでに開催しており、そのブラッシュアップと、評定練習用のビデオや教材の補充や充実に努めた。医療保険に適用後、想定以上の受講希望者があり、早期受講などの要望が寄せられた。それらの要望に応じるべく、講習会開催頻度を当初の予定の3倍（年間2回から6回へ）、一回の受講人数を50名から100名へと、質を落とさずに受講者を増やすように工夫を重ねた。その他、受講修了者から、使用しながらのブラッシュアップの会などの希望もあり、各種学会や研究会での発表や意見交換を行った。

認知機能の補強については、研究室内で、主として運動面や感覚処理の脳機能解析を進めるとともに、新版K式発達検査とタイアップした調査を、中学校を中心にフィールドにて行った。

【会議・事例検討会】

以下のように全体およびグループ毎の会議を開き、話し合いながら進めていった。

・平成29年度第一回事例検討会

日時：平成29年6月3日(土) 10時～13時

場所：こころの未来研究センター別館セミナー室1

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、小学生事例および新規ロールプレイ事例（大学生事例）の推敲を行った。

・平成29年度第二回事例検討会

日時：平成29年6月17日(土) 14時～17時

場所：こころの未来研究センター別館セミナー室1

内容：講習会にて幅広い事例に対応できるようにするため、成人・小学生事例の推敲を行った。

・平成29年度関係者全体会議

日時：平成28年7月2日(日) 10時～14時

場所：吉田南総合館南棟二階216

内容：RISTEX終了に伴い、これまでの振り返りを行い、またMSPA講習会の継続やMSPAの普及をどのようにしていくかについての話し合いを行った。

・MSPA講習会用ロールプレイビデオ撮影

日時：平成28年7月2日(日) 18時～20時

場所：京都国際社会福祉センター 本館

内容：これまで開催してきたMSPA講習会の振り返りから、年齢層の高い方の面談風景が必要で

あるという話になり、新たに大学生事例のロールプレイビデオを作成するためのビデオ撮影を行った。

【MSPA講習会】

平成29年度も引き続き、以下のような形で講習会を行った。

・ 第四回MSPA講習会（平成29年度第一回MSPA講習会）

対象人数：91名

日時：平成29年4月14日（金）・15日（土）

場所：金曜）京都テルサ東館2階セミナー室

土曜）京都国際社会福祉センター 本館および東館

・ 第五回MSPA講習会（平成29年度第二回MSPA講習会）

対象人数：48名

日時：平成29年5月26日（金）・27日（土）

場所：京都国際社会福祉センター（東館）

・ 第六回MSPA講習会（平成29年度第三回MSPA講習会）

対象人数：88名

日時：平成29年9月1日（金）・2日（土）

場所：金曜）京都産業大学むすびわざ館

土曜）京都国際社会福祉センター 本館および東館

【調査】

日時：平成29年7月～9月

場所：京都府内および大阪府内の機関において、小学生・中学生・高校生・大学生（個人情報特定につながるため記載を省略する）

内容：定型発達の小学生・中学生・高校生・大学生を対象としたMSPA評価を行うための調査を行った。本人を対象とした質問紙調査および面接調査を行うほかに、小学生・中学生・高校生は保護者にも質問紙調査および面接調査を行った。他の指標として、ASEBAによるメンタルヘルスと行動のチェックリスト、認知機能検査として新版K式発達検査も同時に行い、データを補強した。

3. 実装活動の成果

(1) 目標達成及び実装状況

【支援期間終了時の目標（到達点）】 <ul style="list-style-type: none">・医療保険制度への収載・医療機関における実地や普及のサポート・講習会開催	【実装状況】 <ul style="list-style-type: none">・平成28年4月より保険収載・学会などにおける報告・5（2）に示すような講習会を実施
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 実装された成果の今後の自立的継続性

マニュアルを発行し、講習会の定期開催のシステムを立ち上げたため、継続性は確保された。なお、医療保険への収載もあいまって、MSPAを使用したいというニーズが高まり、講習会受講者も増え、学会等での発表や講演も盛んに行っている。講習会修了者が各地で使用することで、周辺の支援者への普及につながっていき、また、学会を通じた活動からも更なる普及が進むと想定される。

(3) 実装活動の他地域への普及可能性

講習会受講者は、全国各地から来られ、医師、臨床心理士、教師など多様であった。平成29年9月までで、450名の修了者を輩出しており、各地で評定されることを鑑みると全国的に普及されていくと考えられる。今後も、年間500－600名の講習修了者を輩出予定であることから、一層の普及が期待できる。なお、講習会に加え、各専門学会にても発表や意見交換を行っているため、種々の立場の支援者に応じた工夫がなされていくと考えられる。更には、各種言語への翻訳と、ドイツやブラジルなど一部地域での活用が進んでおり、さらなる国際論文も執筆中であることから、国際普及も期待される。

(4) 実装活動の社会的副次成果

当初の目標を達成しながら、それ以上の社会からの要望に応えるべく対応を続けている。発達障害の支援者は様々な立場からなり、それぞれのスタンスの違いや温度差が課題となることがあるが、幅広い立場からなる組織体制により、視野の広い対応を可能とした。また、医療、教育、社会の各種の立場の支援者が講習会を受講し、専門的な学会では経験しにくい、専門分野の異なる支援者で意見交換を交わすことが可能となった。今後、保育、教育、就労、社会支援などの種々の側面を通じた共通理解が広がっていくことが予想され、ライフステージを通じた切れ目のない一貫した支援の観点として活用され、当事者の利益になることが予想される。

(5) 人材育成

ワーキンググループに若手の研究員や学生を含めたことにより、MSPAの普及や発達障害者支援を、継続的に行っていく素地を作ることができた。また、各地での研修会や講演会を通じ、医

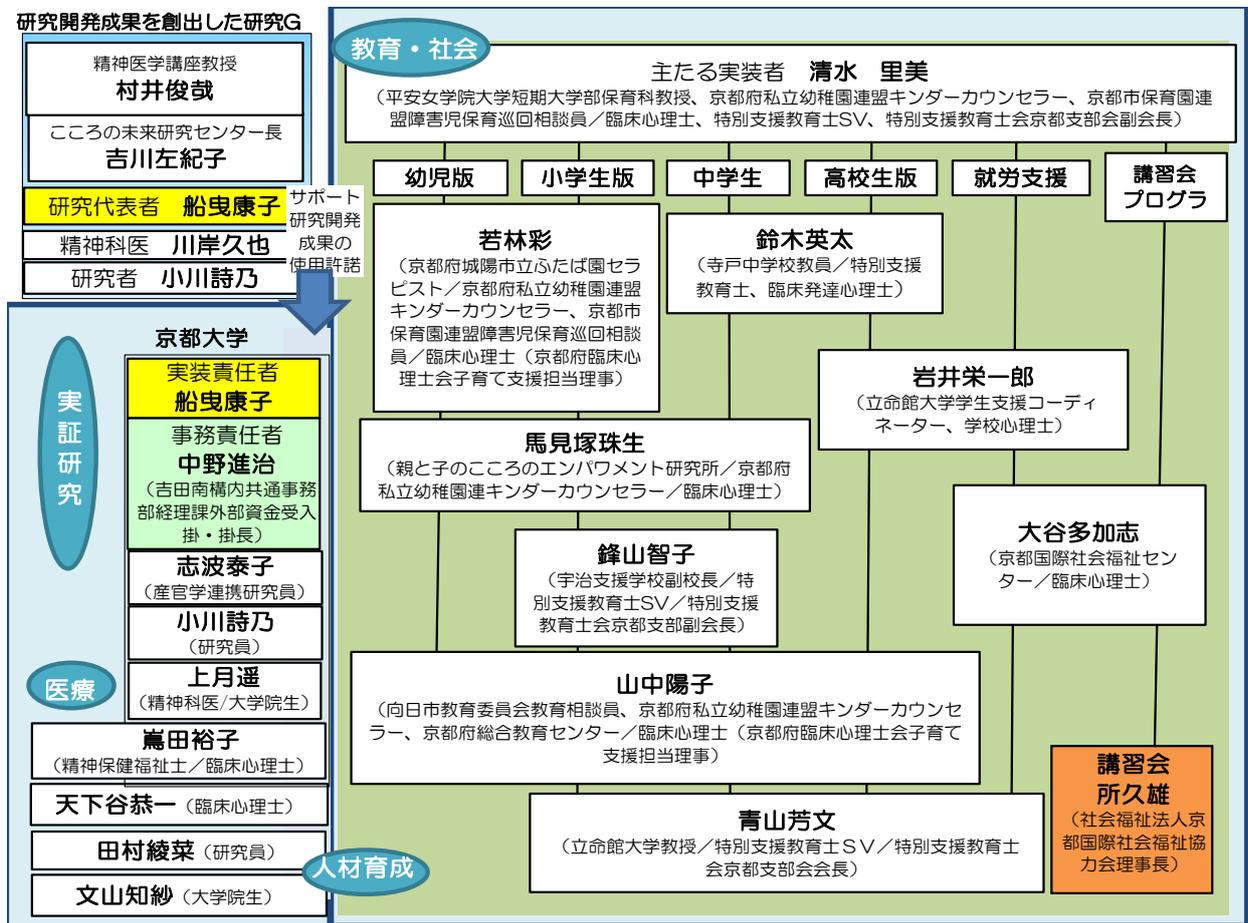
療・教育・社会現場の支援者の質の向上にも貢献できたように思う。

(6) 実装活動で遭遇した問題とその解決策

平成28年夏ごろより、当初想定していなかった認知機能の計測を追加することが必要になった。MSPAは、面接と行動評価による評価法であり、評定の簡便化のため、用具による評価を含まない。しかし、協調運動や注意力などの認知機能と、MSPAの評定値との関連を検証すべきだと判断されたためである。このため、当研究グループは、平成28年度冬より、脳機能イメージング装置を用いた認知機能の解析、および新版K式発達検査とMSPAをタイアップさせた形でのフィールド調査を行うことで、データを補強した。

4. 実装活動の組織体制

<終了時>



平成 26 年 11 月 2 日	支える人の 学びの 場先生のための こころ塾 2014	京都大学 稲盛財団 記念館	B コース実践報告 参加人数：約 60 名 全国から応募してきた学校教員が 対象。MSPA の紹介と MSPA を 用いた支援の事例紹介を行った。 実際に支援に携わる教員が MSPA の概念と実際の支援知ったこと で、通常の業務に活かせる可能性 がある。	京都大学こ ころの未来研究 センター (小川)	特別支援教育の推 進が期待される。
平成 27 年 2 月 8 日	第 39 回全 国精神保 健福祉業 務研修会 in 京都	京都市 教育文化 センター	参加人数：約 250 名 精神保健福祉業務に従事する自治 体職員を対象として、大人の発達 障害の見立てと対応として、 MSPA を用いて解説を行った。	全国精神保健 福祉相談員会 (船曳)	現場において応用 可能性が高い。
平成 27 年 3 月 7 日	エビリフ アイ学術 研究会	グランヴ イア京都	参加人数：約 20 名 MSPA を活用した患者の評価に関 するケース報告を行った。ケース 報告の内容は、ADHD をベースに 急性精神病症状呈した患者におい て、MSPA を用いて ASD 特性の 有無を確認し、幻覚・妄想の内容 との関連を検討することの重要性 について説明した。	大塚製薬 (柴田)	臨床現場での応用 可能性の促進が期 待された。
平成 27 年 7 月 10 日	神戸市発 達障害者 支援セン ター研修 会	神戸市発 達障害者 支援セン ター	参加人数：60 名 「発達障害の特性理解用評価法に ついて」という演題で、MSPA の 開発背景・特徴・活用方法につ いて講義を行った。	神戸市発達障 害者支援セン ター (船曳)	福祉関係者が MSPA の概念や活 用方法を知ったこ とで、地域の連携 ツールとしての MSPA の活用が期 待される。
平成 27 年 7 月 11 日	第 18 回有 床総合病 院精神科 フォーラ ム	札幌市立 大学	シンポジウムⅡ「総合病院での児 童精神科の魅力」 参加人数：80 名 「他科や地域とつながりのための 連携ツール」という演題で、 MSPA の開発背景・特徴・連携ツ ールとしての利点について話題提 供を行った。	日本総合病院 精神医学会 (船曳)	医療関係者が MSPA の概念や活 用方法を知ったこ とにより、臨床現 場での応用可能性 の促進が期待され る。
平成 27 年 8 月 4 日	京都府総 合教育セ ンター研 修会	京都府 総合教育 センター	参加人数：100 名 「MSPA (発達障害評価チャー ト) によるアセスメント」講座に て、MSPA の概要・活用方法につ いて講義した後、事例演習を行っ た。	京都府総合教 育センター (船曳・清 水・青山・鋒 山)	教職員が MSPA の 概念や活用方法を 知ったことによ り、特別支援教育 の推進が期待され る。
平成 27 年 10 月 3 日	公開講座 「共生社 会に向け て」	京都大学 楽友会館	参加人数：60 名 「多様な人と共に生きるには」と いう演題で、市民向けに MSPA の概念を用いながら発達障害の捉 え方について説明した。	京都大学人 間・環境学研 究科 (船曳)	一般市民が MSPA の概念を通じて発 達障害特性の理解 を深めたことで、 発達障害の正しい 理解が広がると期 待される。

平成 27 年 10 月 1 日	第 56 回児 童青年精 神医学会 総会	パシフィ コ横浜	参加人数：50 名 「Multi-Dimensional Scale for PDD & ADHD (MSPA) の使用法 について」という演題で、医療現 場における MSPA の使用法につ いて研修を行った。	児童青年精神 医学会 (船曳)	医療関係者が MSPA の概念や活 用方法を知ったこ とにより、臨床現 場での応用可能性 の促進が期待され る。
平成 27 年 10 月 11 日	日本 LD 学会第 24 回大会自 主シンプ ジウム	福岡国際 会議場	参加人数：80 名 「発達障害の『一面的な捉え方』 ら『多面的な特性把握』～MSPA (発達障害用の要支援度評価スケ ール) の活用を目指して～」と いう演題で、発達障害の多面的な 特性把握の必要性についての事例 報告や MSPA についての情報共 有した後、フロアを交えて、議論 した。	日本 LD 学会 (小川・田 村・寫田・鋒 山) 注：話題提供 者について は、(7) 口 頭発表にも記 載	教職員等が MSPA の概念や支援の実 践を知ったこと により、特別支援教 育の推進が期待さ れる。
平成 27 年 10 月 11 日	日本 LD 学会第 24 回大会自 主シンプ ジウム	福岡国際 会議場	参加人数：90 名 「学校現場における発達障害用の 要支援度評価スケール (MSPA) の活用～アセスメントから支援へ どうつなげるか～」という演題 で、学校現場で MSPA をどのよ うに活用できるか、その可能性を 探ると共に、現状の特別支援教育 における課題についてフロアを交 えて議論した。	日本 LD 学会 (清水・船 曳・鋒山・鈴 木・青山) 注：話題提供 者について は、(7) 口 頭発表にも記 載	教職員等が MSPA の概念や支援の実 践を知ったこと により、特別支援教 育の推進が期待さ れる。
平成 27 年 10 月 17 日	支える人 の学びの 場 先生 のためのこ ころ塾 2015	京都大学 稲盛財団 記念館	実践報告 参加人数：100 名 MSPA を用いた支援の実践につ いて報告した。	京都大学こ ころの未来研究 センター (小 川・田村)	教職員が MSPA の 概念や支援の実 践を知ったこと により、特別支援教 育の推進が期待さ れる。
平成 27 年 11 月 21 日	支える人 の学びの 場 医療専 門職のため のこころ 塾 2015	京都大学 稲盛財団 記念館	参加人数：100 名 講義「治す・つきあう」の balan スとその支援」という演題で、 MSPA の開発背景・特徴・活用方 法について講義を行った。	京都大学こ ころの未来研究 センター (船 曳)	医療関係が MSPA の概念や活用方 法を知ったこと により、臨床現場 での応用可能性 の促進が期待さ れた。
平成 27 年 12 月 19 日	S.E.N.S. の会京都 支部会	与謝野町 中央公民 館	参加人数：20 名 「発達障害の『一面的な捉え 方』から『多面的な特性把握』 ～MSPA (発達障害用の要支援 度評価スケール) を用いて～ MSPA の概要について」という 演題で講義した後、発達障害の 多面的な特性把握の必要性につ いて事例を用いて説明した。	S.E.N.S.の会 (小川)	教職員や S.E.N.S. (特別支援教育 士) の有資格者が MSPA の概念を通 じて発達障害特 性の理解を深めた ことで、特別支援 教育の推進が期 待される。
平成 28 年 2 月 26 日	発達障害 の子ども を対象と した学習	作新学院 大学	参加人数：15 名 MSPA の概要について講義した 後、MSPA を用いた学習支援事例 を紹介した。	研究会主催： 作新学院大学 大学院日高茂 暢先生	教職員や支援者 を目指す学生が MSPA の概念を通 じて発達障害特 性

	支援についての研究交流会			(小川)	の理解を深めたことで、特別支援教育の推進が期待される。
平成 28 年 3 月 28 日	西京保健センター 母子保健学習会	西京保健センター	参加人数：20 名 「育てづらさを感じている親への早期支援について」という演題で、保健師および発達相談所職員を対象に、発達障害をはじめとした育てづらさを感じさせる子どもを持つ保護者への支援について研修を行った。	京都市 (清水)	発達障害を有するなどの要因によって、養育の難しさを感じさせやすい子どもの保護者に対する支援の充実が期待される。
平成 28 年 4 月 30 日	日本発達心理学会 第 27 回大会ラウンドテーブル	北海道大学	参加人数：約 30 名 「ライフステージを通じた支援を考える～MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の概念を用いて～」という演題で、MSPA の概念および活用方法を説明しながら、発達障害者に対するライフステージを通じた支援のあり方について提案した後、フロアを交え、議論を行った。	日本発達心理学会（小川・清水・馬見塚・畠田） 注：話題提供者については、(7) 口頭発表にも記載	研究者および実践者に向けて MSPA の概念や活用方法を発信したことにより、研究における MSPA の活用をさらに普及させていくとともに、現場での発達段階に合わせた支援の充実が期待される。
平成 28 年 6 月 17 日	特別支援教育<推進>「合理的配慮を踏まえた指導・支援」講座	京都府総合教育センター	(コーディネーター養成Ⅱ) 参加人数：150 名 「MSPA を活用したアセスメントと支援」という演題で、京都府内の教職員を対象に、MSPA を用いた事例をもとに、質問の仕方や評価法について演習形式で説明を行った。	京都府総合教育センター (青山・清水)	教職員が MSPA を用いたアセスメントとそれを活用した支援の実際を知ったことにより、特別支援教育の推進が期待される。
平成 28 年 8 月 25 日	長岡第十小学校校内研修会	長岡第十小学校図書室	参加人数：30 名 「通常学級に在籍する支援を要する児童への指導のあり方」という演題で、教職員を対象に、発達障害などの理由から、特別な配慮を要する児童に対する指導・支援のあり方について研修を行った。	長岡京市 (清水)	教職員が発達障害などの理由から、特別な配慮を要する児童の理解を深めたことで、通常学級においても、目の行き届いた支援の普及が期待される。
平成 28 年 9 月 4 日	日本心理臨床学会 第 34 回大会自主シンポジウム	パシフィコ横浜	参加人数：約 150 名 「これからの発達障害アセスメント～MSPA・K 式・CBCL を現場でどう使いこなすか～」という演題で、MSPA・K 式・CBCL の現場での活用方法を中心に、発達障害のアセスメントのあり方について報告した後、フロアを交えた議論を行った。	日本心理臨床学会（清水・馬見塚・山中・若林・大谷） 注：話題提供者については、(7) 口頭発表にも記載	研究者および実践者が MSPA・K 式・CBCL の実施・活用法を知ったことにより、研究および臨床現場での活用の促進が期待される。
平成 28 年 10 月 8 日	支える人の学びの場 医療専	京都大学 稲盛財団 記念館	参加人数：100 名 「発達障害の理解と支援：先端の知と実践をつなぐ 実践報告」と	京都大学 こころの未来研究	医療および教育専門職者が、発達障害に関して事例を

	門職のためのこころ塾 2016		いう演題で、医療および教育専門職者を対象に、発達障害に関する理解を促すことを目的とした事例報告を行った。	センター (小川・田村)	通してその特性や支援に関する知識を深めたことで、発達障害の正しい理解の促進が期待される。
平成 28 年 11 月 20 日	日本 LD 学会第 25 回大会 自主シンポジウム	パシフィコ横浜	参加人数：約 50 名 「発達障害児者の支援における MSPA（発達障害の特性別評価法）の活用～各ライフステージにおける支援事例を通して～」という演題で、発達障害児者のライフステージに応じた支援の必要性およびその際の MSPA の活用に関して、事例を通じて報告した後、フロアを交えた議論を行った。	日本 LD 学会 (清水・鋒山・鈴木・小川) 注：話題提供者については、(7) 口頭発表にも記載	教職員等が発達段階に応じた支援の必要性および、MSPA の活用法を知ったことにより、特別支援教育の推進が期待される。
平成 28 年 11 月 20 日	日本 LD 学会第 25 回大会 自主シンポジウム	パシフィコ横浜	参加人数：30 名 「信頼関係の構築からはじめるアセスメントと支援～子どもの考えを尊重した関係作りを目指して～」という演題で、子どもの考えを尊重しながら、信頼関係を構築することに重点を置いた評価と支援のあり方について話題提供し、フロアを交えて議論を行った。	日本 LD 学会 (小川・清水・鈴木) 注：話題提供者については、(7) 口頭発表にも記載	教職員等に、アセスメントと支援にあたっての信頼関係の重要性の再認識を促したことにより、特別支援教育の更なる充実が期待される。
平成 28 年 11 月 25 日	第 29 回日本総合病院精神医学会学術総会 シンポジウム	日本教育会館	参加人数：200 名 「総合病院精神科における発達障害児（者）の診療～年代別の特徴と対応のポイント～」という演題で、医療従事者を対象に、精神科における発達障害の診療および対応を年代別に示した後、フロアを交えて議論を行った。	日本総合病院精神医学会 (船曳)	医療従事者が、発達障害児者を診療するにあたり、年齢に応じた診療が可能となるとともに、支援の質の向上に貢献することが期待される。
平成 29 年 6 月 8 日	平成 29 年度幼稚園教育理解推進事業（幼児教育相談研修講座）	京都私学会館 地階大会議室	参加人数：約 100 名 「親に寄り添う子育て支援」という演題で、京都府内の私立幼稚園に勤める保育者を対象に、親の心理状態等についてのアセスメントおよび子育て支援における留意点について研修を行った。	京都府私立幼稚園連盟 (清水)	保育者が親支援に関わって、発達障害概念についても正しく理解し、早期から親に寄り添い、継続的な支援を提供することが期待できる。
平成 29 年 7 月 6 日	京都府総合教育センター 主催 平成 29 年度初任者研修 特別支援学校 2	京都府総合教育センター 北部研修所	参加人数：約 80 名 「障害の理解とアセスメント」という演題で、特別支援学校の初任教職員に対し、障害概念およびアセスメントにおける留意点と支援目標について講義を行った。	京都府総合教育センター (清水)	初任者研修の中で、教職員等に対し、発達障害概念の理解とアセスメントから支援につなげる内容での講義の中で、MSPA 概念の紹介をおこなった。支援教育の更なる充実が期待される。

平成 29 年 8 月 21 日	平成 29 年 度発達支 援リーダ ー研修会 第 1 回 基礎編	舞鶴西総 合会館	参加人数：80 名 「乳幼児の発達と発達障害の理解 —乳幼児期の発達—」という演題 で、京都府内の認定こども園及び 保育所に勤務する保育者に対し、 乳幼児の発達の解説、アセスメン トのポイント、発達支援の保育に おける留意点についての解説を行 った。	舞鶴市健康・ 子ども部 (清水)	保育者が発達障害 概念について、正 しく理解すること により、早期から の継続的な支援や 専門機関との連携 が期待できる。
平成 29 年 9 月 16 日	京都府臨 床心理士 会学校臨 床部局平 成 29 年度 研修会	キャンパ スプラザ 京都	参加人数：約 100 名 京都府内の小・中・高に勤務する スクールカウンセラーに対し、 MSPA を通じた発達障害理解の有 用性について、実践例を交えなが ら研修を行った。	京都府臨床心 理士会 (清水・鈴 木)	京都府内のスクー ルカウンセラーに MSPA 概念と活用 の実際を伝えるこ とで、現場での発 達障害理解と二次 的な問題への対応 および職種間の連 携がさらに進むこ とが期待される。

(3) 書籍、DVD

1. 船曳康子. 5. 臨床心理士の役割 9. 教師・スクールカウンセラーとの連携. 総合病院精神科医
向けの子どもの心の診療に関するマニュアル. 日本総合病院精神医学会児童青年期委員会編. 星
和書店. 2016, 37-45, 59-67.
2. 清水里美. 第 2 章 発達のアセスメント 第 3 章 主な発達検査の紹介 1) 新版 K 式発達検査
2001. 尾崎康子・三宅篤子(編) 知っておきたい発達障害のアセスメント. ミネルヴァ書房. 2016,
26-33.
3. 船曳康子. IV. MSPA の保険認可. 発達障害白書 2018 年版. 明石書店. 2017 (印刷中) .
4. 船曳康子. D1) 発達障害の特性別評価法—Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD. 公
認心理師技法ガイド. 文光堂 (編集中) .

(4) ウェブサイトによる情報公開

船曳研究室、<https://sites.google.com/site/fnabikilaboratory/Home> (2015/9/15 作成)

(5) 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

1. 船曳康子. AD/HD の診断と治療—発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-
dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して—. コンサータ WEB セミナー. 丸井ク
リニック. 2016 年 3 月 23 日.
2. 船曳康子. AD/HD の診断と治療—発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-
dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して—. AD/HD Clinical Meeting 2016
Spring. 京都ブライトンホテル. 2016 年 5 月 14 日.
3. 船曳康子. AD/HD の診断と治療—発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-

- dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. コンサータ Web セミナー. TKP ガーデンシティ京都. 2016 年 7 月 13 日.
4. 船曳康子. 発達障害の特性別評価法(MSPA)の理解と活用. 子ども・青少年育成支援協会. 特別講座. グランフロント大阪. 2016 年 8 月 27 日.
 5. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. 石川県 ADHD 治療講演会. 白鳥路ホテル. 2016 年 10 月 6 日.
 6. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. 第 57 回 日本児童青年精神医学会ランチョンセミナー. 岡山コンベンションセンター. 2016 年 10 月 29 日.
 7. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. ADHD 学術講演会 in 岡山. 岡山プラザホテル. 2016 年 10 月 29 日.
 8. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. WEB セミナー. 2016 年 11 月 1 日
 9. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. ADHD Conference. 東京ドームホテル. 2016 年 11 月 5 日
 10. 船曳康子. うちの子少し違うかも...～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～. サイエンスアゴラ 2016 キーノートセッション. 日本科学未来館. 2016 年 11 月 5 日.
 11. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. 烏丸沿線フォーラム. ロイヤルパークホテル京都. 2016 年 11 月 19 日.
 12. 船曳康子. 発達障害の特性別評価法(MSPA)の理解と活用. 子ども・青少年育成支援協会. 特別講座. 大手町ファーストスクエアカンファレンス. 2016 年 11 月 26 日.
 13. 船曳康子. MSPA による特性理解と活用について. 京都府精神保健福祉総合センター主催講演会. 京都府精神保健福祉総合センター. 2017 年 1 月 20 日.
 14. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. 第 9 回筑後地区発達障害治療研究会. 福岡県久留米市. 2017 年 3 月 14 日.
 15. 船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) の臨床における活用. ADHD Clinical Care Seminar. 熊本. 2017 年 3 月 18 日.
 16. 船曳康子. AD/HD の診断と治療ー発達障害者の特性別適応評価用チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用してー. 第 7 回鳥取県発達障害治療研究会. 米子コンベンションセンター. 2017 年 4 月 8 日.

17. 船曳康子. MSPA の実際の活用について. WEB セミナー. 京都. 2017 年 4 月 12 日
18. 船曳康子. AD/HD の診断と治療—発達障害者の特性別適応評価チャート MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) を活用して. 長崎 ADHD 研究会. 道ノ尾病院. 2017 年 4 月 22 日.
19. 船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) の活用について. 京都言語聴覚士会. 京都医健専門学校. 2017 年 7 月 26 日
20. 船曳康子. 発達障害の要支援度評価尺度 (MSPA) の臨床応用と地域連携. Web 講演会. 総合保健福祉センター 2017 年 9 月 30 日.

(6) 論文発表 (国内誌 8 件・国際誌 2 件)

- ・船曳康子. 発達障害の特性理解とこれから. 児童青年精神医学とその近接領域. 2015; 56(3): 329.
- ・ Ivanova MY, Achenbach TM, Rescorla LA, Turner LV, Árnadóttir HA, Au A, Caldas JA, Chaalal N, Chen YC, da Rocha MM, Decoster J, Fontaine J, Funabiki Y, Gudmundsson HS, Kim YA, Leung P, Liu J, Malykh S, Marković J, Oh KJ, Petot JM, Samaniego VC, Silvaes EFM, Simulioniene R, Sobot V, Sokoli E, Sun G, Talcott JB, Vázquez N, Zasepa E. Syndromes of Self-Reported Psychopathology for Ages 18-59 in 28 Societies. *J Psychopathology and Behavioral Assessment*. 2015;37(2):171-83.
- ・船曳康子、村井俊哉. ASEBA 行動チェックリスト (18~59 歳成人用) の標準値作成の試み. *臨床精神医学*. 2015;44(8).
- ・船曳康子. MSPA (Multi-dimensional Scale for PDD and ADHD) 「発達障害用の要支援度評価スケール」. 児童青年精神医学とその近接領域. 2016; 57(4): 481-5.
- ・船曳康子. 不適応行動をアセスメントする ASEBA 行動チェックリスト. *臨床心理学*. 2016; 16(1):61-4.
- ・ Rescorla LA, Achenbach TM, Ivanova MY, Turner LV, Althoff RR, Árnadóttir HA, Au A, Bellina M, Caldas JC, Chen Y, Csemy L, da Rocha MM, Decoster J, Fontaine J, Funabiki Y, Guðmundsson H, Harder VS, Leung P, Ndeti DM, Maraš JS, Marković J, Oh KJ, Samaniego VC, Sebre S, Silvaes E, Simulioniene R, Sokoli E, Vazquez N, Zasepa E. Problems and Adaptive Functioning Reported by Adults in 17 Societies. *Int. Perspectives in Psychology*. 2016;5(2):91-109.
- ・ Rescorla LA, Achenbach TM, Ivanova M, Turner LV, Árnadóttir H, Au A, Calda, JC., Chen Y, Decoster J, Fontaine J, Funabiki Y, Guðmundsson HS, Leung P, Liu J, Maraš JS, Marković J, Oh KJ, da Rocha MM, Samaniego VC, Silvaes E, Simulioniene R, Sokoli E, Vazquez N, Zasepa E. Collateral Reports and Cross-Informant Agreement about Adult Psychopathology in 14 Societies. *Journal of Psychopathology and Behavioral Assessment*. 2016;38(3):381-397.
- ・船曳康子、村井俊哉 (2017) : ASEBA 行動チェックリスト (TRF: 教師用) 標準値作成の試み.

児童青年精神医学とその近接領域. 2017; 58,185-196.

・船曳康子、村井俊哉 (2017) : ASEBA 行動チェックリスト(CBCL: 6-18 歳用) 標準値作成の試み. 児童青年精神医学とその近接領域. 2017; 58,175-184.

・船曳康子. 精神科診療における発達障害の特性別の評価方法. 総合病院精神医学. 2017 (印刷中) .

・船曳康子. 第 1 章 概念と定義—発達障害の概念 第 4 章 臨床的見立て—臨床場面で多い発達障害の合併を前提とした一般的な診断手続きの解説. 最新医学. (印刷中)

(7) 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

①招待講演 (国内会議 8 件、国際会議 0 件)

・船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害の特性理解とこれから(教育講演)、児童青年精神医学会、アクトシティ浜松 B1F 中ホール、2014 年 10 月 12 日

・船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害の学生をキャンパスライフで伸ばす、全国大学メンタルヘルス研究会、龍谷大学、2014 年 12 月 12 日

・船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科) 「Multi-Dimensional Scale for PDD & ADHD (MSPA) の使用法について」第 56 回児童青年精神医学会総会、パシフィコ横浜、2015 年 10 月 1 日

・船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 発達障害用の要支援度評価スケール (MSPA) による発達評価と支援. 第 57 回日本児童青年精神医学会総会. 共催セミナー. 岡山コンベンションセンター. 2016 年 10 月 29 日.

・船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 精神科診療における発達障害の特性別の評価方法. 第 29 回日本総合病院精神医学会学術総会. 教育講演. 日本教育会館. 2016 年 11 月 25 日.

・船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 発達障害の特性別評価表 (MSPA) について知ろう. 関西学生発達障害支援フォーラム. 特別講演. キャンパスプラザ京都. 2017 年 1 月 27 日.

・船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科). 医療の現場で使用されているアセスメントについて学ぶ. 日本臨床心理士会. 全国定例研修会. 大阪科学技術センター. 2017 年 2 月 18 日.

・船曳康子. 発達障害用の要支援度評価スケール MSPA の活用について. 日本外来精神医療学会. モーニングセミナー. 龍谷大学. 2017 年 6 月 11 日.

②口頭発表 (国内会議 26 件、国際会議 1 件)

・上月遥 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、川岸久也 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、志波泰子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、吉住美保 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、村井俊哉 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、船曳康子 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、発達障害外来受診者の睡眠状況調査—ADHD 関連項目に関する検討—、

日本児童青年精神医学会総会、アクトシティ浜松、2014年10月12日。

・小川詩乃（京都大学大学院医学研究科）、船曳康子（京都大学医学部附属病院精神科神経科）、吉川左紀子（京都大学こころの未来研究センター）、発達障害児の読み書き困難評価と支援実践 ～発達障害の特性理解チャート（MSPA）を用いて～、第55回日本児童青年精神医学会総会、アクトシティ浜松、2014年10月13日

・小川詩乃（京都大学大学院医学研究科）、発達障害の支援とデジタル教材・機器～光と影を考える～（自主シンポジウム「デジタル教材・機器との付き合い方を考える」内での話題提供）、日本LD学会第23回大会、大阪国際会議場、2014年11月24日

・上月遥（京都大学医学部附属病院精神科神経科）、川岸久也（京都大学医学部附属病院精神科神経科）、志波泰子（京都大学大学院人間・環境学研究科）、村井俊哉（京都大学医学部附属病院精神科神経科）、船曳康子（京都大学大学院人間・環境学研究科）。発達障害外来受診者の睡眠リズム障害－ADHD関連項目の検討－第56回児童青年精神医学会総会。パシフィコ横浜。2015年10月1日。

・田村綾菜（愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所）、発達障害のある児童への学習支援の実践を振り返って（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、2015年10月11日

・畠田裕子（京都大学医学部附属病院 精神科神経科）、特性把握を活かした就労支援とは（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、2015年10月11日

・小川詩乃（京都大学大学院人間・環境学研究科）、MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の紹介（自主シンポジウム「発達障害の「一面的な捉え方」から「多面的な特性把握」へ ～ MSPA（発達障害用の要支援度評価スケール）の活用を目指して～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、2015年10月11日

・船曳康子（京都大学大学院人間・環境学研究科）、医療の手前のできることは（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へどうつなげるか～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、2015年10月11日

・鋒山智子（京都府総合教育センター）、校内での教育相談に MSPA を活用（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へどうつなげるか～」内での話題提供）、日本LD学会第24回大会、福岡国際会議場、2015年10月11日

・鈴木英太（向日市立勝山中学校）、中学校現場における MSPA の活用（自主シンポジウム「学校現場における発達障害用の要支援度評価スケール（MSPA）の活用 ～ アセスメントから支援へ

どうつなげるか ～」内での話題提供)、日本 LD 学会第 24 回大会、福岡国際会議場、2015 年 10 月 11 日

・上月遥 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、川岸久也 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、志波泰子 (京都大学大学院人間・環境学研究科)、村井俊哉 (京都大学医学部附属病院精神科神経科)、船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科)。発達障害外来受診者の睡眠リズム障害－ADHD 関連項目の検討－第 56 回児童青年精神医学会総会。パシフィコ横浜。2015 年 10 月 1 日。

・清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科)。保育・教育現場でのコンサルテーションにおける MSPA 活用のメリット (ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考える－MSPA (発達障害用の要支援度評価スケール) の概念を用いて－」内での話題提供)。日本発達心理学会第 27 回大会。北海道大学。2016 年 4 月 30 日。

・馬見塚珠生 (親と子のこころのエンパワメント研究所)。子育て支援を通じた子どもの見立て・保護者の見立て (ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考える－MSPA (発達障害用の要支援度評価スケール) の概念を用いて－」内での話題提供)。日本発達心理学会第 27 回大会。北海道大学。2016 年 4 月 30 日。

・小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)。学習のつまずきの背景を探る－多面的な特性把握の必要性－ (ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考える－MSPA (発達障害用の要支援度評価スケール) の概念を用いて－」内での話題提供)。日本発達心理学会第 27 回大会。北海道大学。2016 年 4 月 30 日。

・畠田裕子 (京都大学医学部附属病院 精神科神経科)。特性把握を活かした就労支援－アセスメントから就労定着まで－ (ラウンドテーブル「ライフステージにおける支援を考える－MSPA (発達障害用の要支援度評価スケール) の概念を用いて－」内での話題提供)。日本発達心理学会第 27 回大会。北海道大学。2016 年 4 月 30 日。

・清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科)、馬見塚珠生 (親と子のこころのエンパワメント研究所)。発達障害特性理解を促す保育者向け研修内容の検討－発達障害用要支援度評価スケール (MSPA) の視点を取り入れた効果－。日本保育学会第 69 回大会。東京学芸大学小金井キャンパス。2016 年 5 月 7 日

・清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科)。既存の項目の通過基準の検討 (自主シンポジウム「発達アセスメントへのニーズと課題－新版 K 式発達検査改訂版の作成をめぐって－」内での話題提供)。日本発達障害学会第 51 回大会。京都教育大学。2016 年 8 月 28 日。

・馬見塚珠生 (親と子のこころのエンパワメント研究所)。「子育て支援における活用」。(自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメント－MSPA・K 式・CBCL を現場でどう使いこなすか－」内での話題提供)。日本心理臨床学会第 34 回大会。パシフィコ横浜。2016 年 9 月 4 日。

・山中陽子 (向日市教育委員会・京都府総合教育センター)。「学校現場における活用」。(自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメント－MSPA・K 式・CBCL を現場でどう使いこな

すかー」内での話題提供) . 日本心理臨床学会第 34 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 9 月 4 日.

・若林彩 (城陽市立ふたば園) . 「早期支援における活用」. (自主シンポジウム「これからの発達障害アセスメント—MSPA・K 式・CBCL を現場でどう使いこなすかー」内での話題提供) . 日本心理臨床学会第 34 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 9 月 4 日.

・上月遥 (京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科)、志波泰子 (京都大学大学院人間・環境学研究科)、小川詩乃 (京都大学大学院人間・環境学研究科)、川岸久也 (京都大学医学部)、村井俊哉 (京都大学医学部)、船曳康子 (京都大学大学院人間・環境学研究科) 136. 発達障害外来における睡眠研究—ASEBA と MSPA の比較検討—. 第 57 回児童青年精神医学会総会. 岡山コンベンションセンター. 2016 年 10 月 27 日.

・清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科) . 自己理解から始めた大学生への支援 (自主シンポジウム「発達障害児者の支援における MSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供) . 日本 LD 学会第 25 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 11 月 20 日.

・鈴木英太 (京都府向日市立寺戸中学校) . 中学校現場における MSPA 活用の事例. (自主シンポジウム「発達障害児者の支援における MSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供) . 日本 LD 学会第 25 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 11 月 20 日.

・小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科) . 保護者と共に把握する子どもの多面的な発達障害特性 (自主シンポジウム「発達障害児者の支援における MSPA (発達障害の特性別評価法) の活用—各ライフステージにおける支援事例—」内での話題提供) . 日本 LD 学会第 25 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 11 月 20 日.

・小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科) . 子どもとの関係作りにおける多面的な特性把握の必要性 (自主シンポジウム「信頼関係の構築からはじめるアセスメントと支援—子どもの考えを尊重した関係作りを目指して—」内での話題提供) . 日本 LD 学会第 25 回大会. パシフィコ横浜. 2016 年 11 月 20 日.

・鳶田裕子 (京都大学医学部附属病院 精神科神経科) . 発達障害の要支援度評価尺度 (MSPA: Multi-dimensional scale for PDD and ADHD) を用いた就労支援の取り組み. 第 16 回日本精神保健福祉士学会学術集会. 大阪国際会議場. 2017 年 9 月 16 日.

③ポスター発表 (国内会議 10 件、国際会議 1 件)

・清水里美 (平安女学院短期大学部 保育科)、青山芳文 (佛教大学)、亀谷奈津子 (南山城支援学校)、MSPA を用いたアセスメントによる支援対象児の理解~S.E.N.S の会京都支部会の研修をもとに~、日本 LD 学会第 23 回大会、大阪国際会議場、2014 年 11 月 23 日

・槇奈央 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)、佐藤鮎美 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)、曾智 (広島大学)、小川詩乃 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)、中西祐斗 (京都大学大

学院 人間・環境学研究科)、島谷康司(広島大学)、船曳和雄(神戸先端医療振興財団)、辻敏夫(広島大学)、船曳康子(京都大学大学院 人間・環境学研究科)。ASD 者の姿勢制御の認知メカニズム。日本発達心理学会第 27 回大会。北海道大学。2016 年 5 月 1 日。

・大谷多加志(京都国際社会福祉センター)、清水里美(平安女学院短期大学部 保育科)、清水寛之(神戸学院大学 人文学部)。新版 K 式発達検査「名詞列挙」の下位項目の適切性。日本発達障害学会第 51 回大会。京都教育大学。2016 年 8 月 27 日。

・Ogawa S (Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University) , Yoshikawa S (Kokoro Research Center, Kyoto University) , Funabiki Y (Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University) . Individualized learning support program for children with developmental disorders using MSPA (Multi-Dimensional Scale for PDD and ADHD). International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions World Congress. Calgary TELUS Convention Centre. September 21, 2016.

・上月遥(京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科)、志波泰子(京都大学大学院人間・環境学研究科)、小川詩乃(京都大学大学院人間・環境学研究科)、川岸久也(京都大学医学部)、船曳康子(京都大学大学院人間・環境学研究科)。MSPA による神経発達症の特性分布の検討ー発達外来受診患者においてー。発達神経科学学会第 5 回大会 東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル。2016 年 11 月 26 日。

・小川詩乃(京都大学大学院人間・環境学研究科)、志波泰子(京都大学大学院人間・環境学研究科)、上月遥(京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科)、松島佳苗(京都大学 医学部)、福田はるな(京都大学 総合人間学部)、田村綾菜(京都大学 こころの未来研究センター)、嶋田容子(同志社大学 赤ちゃん学研究センター)、船曳康子(京都大学大学院人間・環境学研究科)。ハイリスク児の乳児期からの発達追跡調査ー発達障害の早期支援をめざしてー。発達神経科学学会第 5 回大会 東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル。2016 年 11 月 26 日。

・小川詩乃(京都大学大学院 人間・環境学研究科)。ハイリスク児の乳児期からの発達追跡調査ー発達障害の早期支援をめざしてー。心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会。稲盛財団記念館。2017 年 2 月 12 日。

・上月遥(京都大学大学院 精神科、人間・環境学研究科)。MSPA による神経発達症の特性分布の検討ー発達外来受診患者においてー。心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会。稲盛財団記念館。2017 年 2 月 12 日。

・田村綾菜(京都大学 こころの未来研究センター、人間・環境学研究科)。発達障害の要支援度評価尺度(MSPA)を用いた学習に困難のある児童生徒の特性分類の試み。心の先端研究ユニット年次総会&研究交流会。稲盛財団記念館。2017 年 2 月 12 日。

・清水里美(平安女学院短期大学部 保育科)、馬見塚珠生(親と子のこころのエンパワメント研究所) 保育コンサルテーションにおける MSPA (発達障害用要支援評価スケール) の活用 川崎医療福祉大学 2017 年 5 月 20 日。

・田村綾菜（京都大学 こころの未来研究センター、人間・環境学研究科）、小川詩乃（京都大学 こころの未来研究センター、京都大学霊長類研究所）、船曳康子（京都大学人間・環境学研究科、正高信男（京都大学霊長類研究所）、吉川左紀子（京都大学こころの未来研究センター） . 発達障害の要支援度評価尺度（MSPA）を用いた学習に困難のある児童生徒の特性分類の試み. 日本心理学会第81回大会. 久留米シティプラザ. 2017年9月22日.

（8）新聞報道・投稿、受賞等

①新聞報道・投稿（__1__件）

・京大広報

<http://www.kyoto->

[u.ac.jp/ja/research/events_news/department/ningen_kankyou/news/2016/160413_1.html](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/events_news/department/ningen_kankyou/news/2016/160413_1.html)

（2016年4月16日）

②TV放映（__0__件）

・該当なし

③雑誌掲載（__1__件）

・Medical Tribune. 発達障害の個人差を一目で把握. 2017年6月30日. <https://medical-tribune.co.jp/news/2017/0630509061/>

④受賞（__0__件）

・該当なし

（9）知財出願

国内出願（__0__件）

・該当なし

（10）その他特記事項

当該開発物が、2016年4月に保険収載。

6. 結び

MSPAを開発したのは平成21-23年ごろであったが、実際の社会への普及にはなかなか至らなかった。平成26年度からのRISTEXからのご支援を通し、医療保険への適用があいまって、広く認知されていくこととなった。プロジェクト運営に関しては、協力的なメンバー、社会現場に慣れたメンバー、専門分野をまたいだ意見交換に積極的なメンバーに囲まれていたため、運営には苦勞をしなかったと思う。人の支援をしようと思って集まったメンバーであり、常に当事者の視

点での議論であったことに加え、熱意のある人に恵まれた。メンバーの皆様にはこころより感謝を申し上げたい。

課題としては、高まる認知度に伴う要望に迅速な対応が難しくなった点である。たとえば、講習会を早く受けたい、ビデオ講習をして欲しい、出張で出向いて欲しいなどに対しては期間内に応えきれなかった。様々な立場に置かれた方からのニーズがあり、幅広い支援のニーズに対応できるよう、土台のシステムをしっかりさせることに注力をした。

マニュアルも発行し、講習会として継続できる状態に至っているが、今後は更なるニーズと要望に対応できるよう、職種、立場、習熟度別対応など、学会等を通しながら、より広く一貫した支援が行き届くように検討をしていきたい。

